

## 県外学校視察報告

- (1) 実施日：平成28年9月26日（月）・27日（火）
- (2) 訪問校：東京都立園芸高等学校・東京都立大江戸高等学校
- (3) 訪問者：丸森翠・結城健太
- (4) 視察報告

### 東京都立園芸高等学校定時制課程

#### ①学校概要

- ・全校生徒は66名（うち、農業科目のみを履修する社会人専修生6名）。
- ・入試倍率は1倍を切り、全入状態。
- ・都立新宿山吹高校通信制と連携して3年間で卒業が可能（現在2名が利用）。
- ・卒業後の進路は、1/3が進学、2/3が就職。

#### ②UDLの取り組みと課題

- ・東京都の学校は各教室にプロジェクターが支給されているため、ICTを活用した授業の実践に力を入れている。
- ・始業式・終業式等の部長挨拶にもパワーポイントを用いている。
- ・全日制・定時制共同で研究授業を行っている。
- ・日野市立第三小学校の授業見学・協議会参加（日野市はUDL教育の先進モデル）。
- ・LITALICOジュニア（特別支援教育に特化したソーシャルスキル・学習教室を展開する会社）と連携し、模擬授業を実施予定。
- ・必ずしも全教員の共通理解が得られているわけではない点が課題。
- ・UDLを実践するうえで重要なのは環境と内容。東京都は、環境面（プロジェクターの支給等）は整っているが、内容面ではまだまだ検討が必要。分かりやすさを重視しすぎると、学力の高い生徒からなめられる場合もある。

#### ③研究授業・研究協議から

- ・第1学年「農業と環境」は、全時間パワーポイントを用いた授業を実施。
  - ・授業の導入に「復習クイズ」（3択）を行う。→基礎知識の定着を図るため。生徒からも好評。
  - ・授業の最後に「まとめ」のプリントを配り、本時の内容を文や図を用いてまとめさせる。  
→生徒の理解度チェックとともに、教員の授業反省の材料にもなる。
- （研究協議より）
- ・プリントの空欄には番号をふる方が親切。
  - ・プリントの余白が多いため、その分文字を大きくした方がよい。
  - ・パワーポイントを用いることによって、文字や図を黒板に書く時間の短縮になっているのはよい。
  - ・教科書の図を見るように指示しても、一人ひとりが正しい場所を見ているかどうかは分からない。パワーポイントで前に映せば、全員が同じ図を見ていることが容易に確認できるのでよい。

#### ④学び直しの取り組みについて

- ・国語・数学・英語の授業において、全時間最初の10分間で「マナトレ」を実施。
- ・週4日「0時間目」の授業を設定し、学び直しの授業を行っている。（希望制）

月曜：英語検定、火曜：漢字検定・三修制体育、水曜：キャリア教育（就労支援・小論文）、  
金曜：学び直しの数学

- ・中学校で欠席が多かった生徒も、「学び直し」を通して8～9割の生徒が休まずに登校するようになって  
いる。

## ⑤その他

- ・給食の喫食率は100%。希望制だが、学級経営の一つとして入学時に全員に呼びかけている。
- ・外国人生徒が増加しており、多様な言語を持つ生徒への対応に苦慮している。  
→東京都の多くの学校が抱える問題となっている。

## 東京都立大江戸高等学校

### ①学校概要

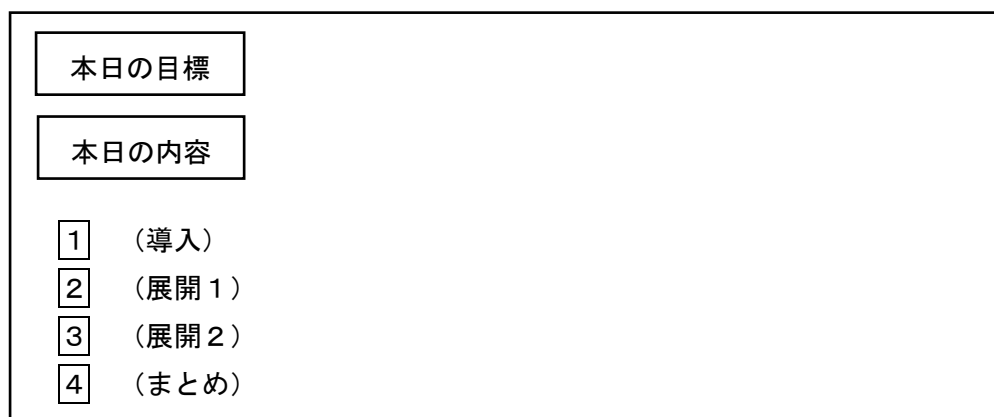
- ・全校生徒は514名（3部合計）。
- ・単位制・総合学科・三部制の高校。小・中学校時代に不登校経験のある生徒や、高校中途退学者を積極的に受け入れる「チャレンジスクール」である。
- ・自部の授業に加え、他部の授業も履修することで3年での卒業が可能。総合学科のため、多種多様な選択科目がある。（伝統・文化系列、生活・福祉系列、情報・ビジネス系列）
- ・入学試験は、自己申告書（250点）・作文（400点）・面接（600点）で行う。内申書の提出は求めず、学力検査は実施していない。入試倍率は2倍を超える。
- ・H27年度卒業生の進路は7割が進学。進学を目指す生徒のために、土曜授業（かもめ塾）を実施。
- ・1年次は2人担任制で、きめ細かい指導を行う。

### ②UDLの取り組みと課題

- ・「UDL研究メンバー」（教諭4名）を定め、担当教科での実践報告を実施。
- ・授業プリントや通信に用いるフォントの統一。→「イワタUDゴシックL」
- ・UDLの3原則を、大江戸版UDLの3原則としてまとめる。→教員用チェックリストの活用

- 1) 「インプット」生徒が指示や新たな知識を理解するための、教員による提示の方法
- 2) 「アウトプット」生徒が自分の考えの表出や実技に取り組むための、生徒自身の表現方法
- 3) 「モチベーション」生徒の学習意欲を高めるための、教員による学習環境の環境整備

- ・授業開始時、「本日の目標」と「本日の内容」を口頭と板書（下図）で提示する。



- 生徒のアンケートでは、「本日の内容」を示すことについては肯定的な回答が多いが、「本日の目標」については否定的な回答が肯定的な回答を上回っている（難易度が高い講座群ほどその傾向は顕著）。自由意見として出てきたものは、「授業によってやり方、覚えることが違うのだから統一する意味が分からない」、「もともと分かりやすい授業だったのでなくても大丈夫」、「目標等を書くことが時間の無駄に感じる」、「口頭でよい」など。
- 教員アンケートでは、必要64.1%、不必要28.2%、その他7.7%。必要という意見が多い反面、提示の仕方（プリント or プロジェクター or 板書）などについては改善点が多い。
- ・重要部分を板書するチョーク・マーカーの色を統一する。
  - 生徒のアンケートでは、重要なポイントを特定の色を使って表すことについては肯定的な意見が多いが、全教科の共通化を図ることについては肯定的・否定的な回答がほぼ同数となった。自由意見として出てきたものは、「赤黄の重要度の違いに混乱する」、「黄色いチョークは見づらい」など。
  - 教員アンケートでは、必要53.9%、不必要41.0%、その他5.1%。色を変えて示す点には肯定的な意見が多いが、統一という点に関しては意見が半数に割れた。
- ・教員全体の反応としては、各授業の実態に合わせるべきという意見が多い。そのため、H27年度は目標の提示とチョークの色の統一を徹底したが、今年度は担当者の裁量に任せている。
- ・UDLは、教科によって実施しやすいものとしにくいものがある。実技教科においては大変効果的。
- ・社会科・理科教員の多くはパワーポイントによる授業を実施。→図や実験結果を表示するのに効果的。
- ・生徒対象に「授業をより良いものにしていくためのアンケート」を実施。アンケート結果をもとに、カウンセリング委員会（教育支援委員会）で支援の手立てを考え、共通理解を図る。
- ・UDLの促進は「分かりやすい授業」にはつながるが、「考えさせる授業」からは離れていく場合が多い。特別な支援を必要としていない生徒の学びの妨げにならないような配慮も必要。

### ③チャレンジ指定科目（キャリア教育）について

- ・1年次「自分を知る」、2年次「社会を知る」、3年次「自分を磨き、伸ばす」というテーマのもと、コミュニケーション能力を育成する授業を行っている。
- （実践例）
- ・「無人島でサバイバル！」
  - グループを作り、無人島での自分の役割、食糧獲得の具体的な手段等を話し合い、発表し合う。
- ・構成的グループエンカウンター
- ・職業体験（インターンシップ）、小論文演習、面接練習、自分史の制作

### ④その他

- ・制服があるが、性的マイノリティーの生徒に対応するため、女子生徒のスラックス着用を認めている。（男子生徒のスカーツは認めていない）